

理事長・学長特別研究が決定

医・松本教授代表の横断的課題に

令和3年度の理事長・学長特別研究の採択研究課題がこのほど、医学部の松本太郎教授を代表者とする「日本大学発技術を用いた再生・細胞治療の実用化に向けた学部横断的研究」に決定した。

理事長・学長特別研究は3年度に大幅に拡充された本部助成金制度の中核。従来の理事長特別研究と学長特別研究を一本化、採択数を1本に絞り、年間1億円、2年間で最大2億円を限度とし

て助成する。本学を象徴する大型研究プロジェクトとなった。

4月末に募集を開始、5件の申請の中から目的や研究方法、本学のブランドイメージ向上に資するかなどを実施委員会で厳しく評価して選定した。

対象の研究組織は松本教授のほか工、医、歯、生物資源科の各学部の15人の教員で構成し、学部横断的に研究を発展させる計画。松本教授の「脱

分化脂肪細胞（DFA T）」を中心に、医学部

の三木敏生教授の「ヒト羊膜上皮細胞（AEC）」や生物資源科学部の枝村一弥教授の「iPS細胞」など本学発の技術を活用して再生・細胞治療の実用化を目指す。

日本大学 広報

NIHON
UNIVERSITY
JOURNAL
No.777

<http://www.nihon-u.ac.jp>

編集・発行 日本大学企画広報部広報課 購読料 年間1,000円(送料共)
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話03(5275)8132直通



CATCH-UP 日大の「今」を伝えます。

教育研究から学生・卒業生の活躍まで幅広く掲載しています。